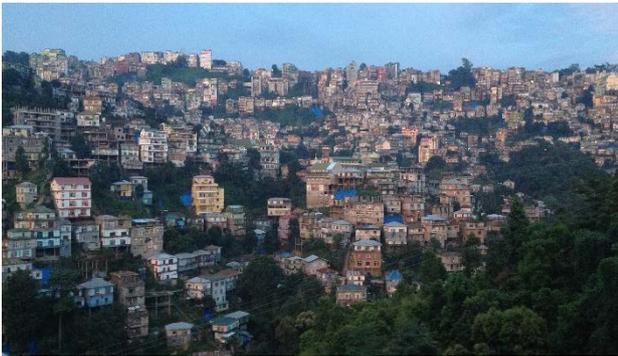




# Mizo-CESAID

The Project on Capacity Enhancement  
for Sustainable Agriculture and Irrigation Development  
in Mizoram

ミゾラム州はインドの北東部に位置し、東はミャンマー、西はバングラデッシュと国境を接しています。人口は109万人（2011年人口センサス）とインドでは2番目に小さな山岳州で、事務所を構える首都アイゾールは標高1,100mに位置しています。



州都アイゾールの街並み

州土の70%の傾斜度が35度を超える同州では、長く移動焼畑農業が営まれてきました。人口の増加に伴い焼畑農業の生産性が低下したことから、州政府は新土地利用政策（New Land Use Policy）を進め、農業の定住化を図りましたが、政策は農業の定住化に必要な技術普及が伴わず、農業の定住化が根付いた状況にありません。そのなか、州政府の要請を受けて「ミゾラム州持続可能な農業・灌漑開発のための能力強化プロジェクト」が2017年7月から開始されました。5年間の本技術協力プロジェクトでは、同州において持続可能な農業・灌漑開発を促進するミゾラム州政府の組織能力を強化するため、(1)技術普及手順・手法の開発、(2)政府職員の能力向上、(3)州政府関係部局間の共同実施の枠組みの構築という3つの成果の達成を目指します。

本プロジェクトでは、土地利用計画や農業生産販売計画の立案、計画達成のために必要な技術普及の手順を示した「手法」を実施機関（灌漑・水資源局、農業局、園芸局、土地資源・土壌・水保全局）とともに作成し、その手法を4つのRD（Rural Development）ブロックで検証します。実証活動は、灌漑インフラ整備、作物栽培技術普及、土壌流亡対策等であり、この実証活動を通じて、将来的に州内

全体に展開できるよう技術普及手順・手法を精緻化する計画です。また同時に、政府の職員の能力向上を図り、州政府の農業・灌漑開発の枠組みの整備を進めます。

2017年8月7日、第1回合同調整委員会（Joint Coordination Committee: JCC）が行われました。JCCは、ミゾラム州の実施機関、関係機関、JICAで構成されるプロジェクトの最上位の意思決定機関で、本プロジェクトではミゾラム州のLalmalsawma 主席次官が議長となっています。第1回 JCC には、坂本 JICA インド事務所長も参加し、5年間のワークプランが協議されました。会議では、灌漑・水資源局から要請の背景となったマスタープラン策定調査（2013～2015年にかけて実施）から本プロジェクトに至るまでの背景、プロジェクトの概要・活動について説明が行われました。会議の中で、灌漑・水資源局のLalengmawia 次官は「過去 JICA の支援により策定されたマスタープランはすばらしいものであり、その実行を確かなものとするために本プロジェクトがある。部局間で連携し、政府職員が主体性を持って参加し、ミゾラム農業の発展を確かなものとしよう。また、この事業の支援を決めた JICA および日本の国民に感謝したい。」と述べました。Lalengmawia 次官のコメントからも、現地政府の本プロジェクトへの期待感が伺えました。

今後、プロジェクトでは手法の一次案作成、各県での現場活動の主体者となる農業・灌漑開発委員会（Block Agriculture and Irrigation Development Committee: BAIDC）の設立、パイロット村の選定の選定を順次行う予定です。



第1回 JCC の風景

(以上)